

理事会セッション（教育委員会共催）

今、大学における研究・教育現場から訴える

Urgent Reports on Research and Education Environment at Universities

学部・大学院に関わる教育環境と課題

Education Environment and future issue on Undergraduate and Graduate Schools

*宇埜 正美¹¹ 福井大学

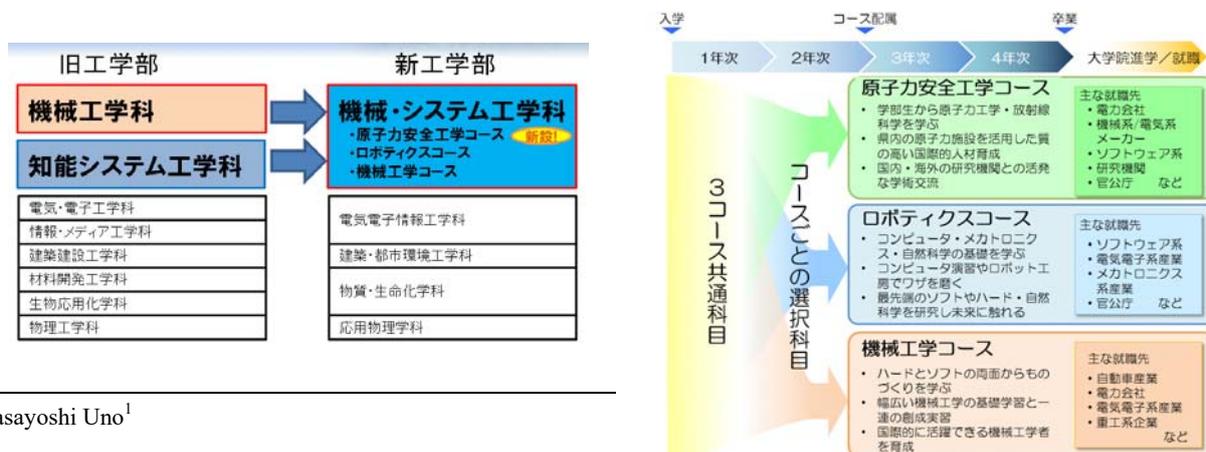
1. 概要

それまでは旧七帝大や東工大、いくつかの私立大学で行われていた原子力関連の単独の学科または専攻による原子力教育は、平成に入って始まった国立大学の大学院重点化の時期に、学生のニーズに対応する組織再編により、次々と失われていった。

そのような中、福井大学は、平成 16 年度に立地地域における大学として、「安全と共生」をキーワードに原子力関連の独立専攻（原子力・エネルギー安全工学専攻）を設置し、平成 21 年度には、「高速炉を含む核燃料サイクルの確率を目指して」附属国際原子力工学研究所を開所している。（開所当時は、福井市内の文京キャンパス）この頃は、福井工大（平成 17 年度）でも新たな原子力関連の専攻が設置されている。

まだリーマンショックの余波で大卒、修士卒の就職状況が決して良くなかった平成 20 年頃にかけては、原子力関連の求人状況は比較的良かったため、原子力を学ぶ学生は容易に確保できたようである。この頃は、東大の専門職大学院は別として、一度失われた「原子力工学科」や「原子力工学専攻」が復活することはなかったが、筑波大、大阪府大、八戸工大など「原子力教員協議会」のメンバーが大幅に増えた時期でもある。

しかし、平成 23 年 3 月の福島第一原子力発電所事故を受けて、原子力をとりまく状況は一変する。その影響は各大学で様々であり、その詳細を把握していないが、福井大学では事故の翌年、附属国際原子力工学研究所を敦賀キャンパスに移転させ、同時に防災部門を設置するなどの改組を行った。さらに事故から 5 年後の平成 28 年度からは原子力の学部教育を開始した。具体的には、下図に示す様に、福井大学の工学部をそれまでの 8 つの小学科から 5 つの大学科に改組すると同時に、機械システム工学科に原子力安全工学コースを設置した。福島事故以降、福井大学の他には、長岡技術科学大学、大阪府大、福井工大でも新たな原子力関連の学科・専攻の設置や改組が行われた。当日は、本コースを中心とした福井大学における原子力の学部、大学院教育について解説するとともに、現時点での課題も紹介する。

*Masayoshi Uno¹¹Univ. of Fukui,